

<あり方検討委員会 検討経過>

◆病床機能について

	現状	求められる役割	あり方検討委員会での意見	住民意見(アンケート結果)	病院の考え
病床機能について	<ul style="list-style-type: none"> 構成市町村における入院患者のうち60%が当院へ受療している。 精神科、神経内科、眼科、産婦人科、小児科、整形外科領域の患者は他院への流出が多い。 当院は、構成市町村内で唯一回復期の病床機能である回復期リハビリテーション病棟と地域包括ケア病棟を有する。 構成市町村内には、医療療養病床を有する病院がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 2025年度の医療需要予測では、高度急性期及び急性期医療病床が過剰となり、回復期及び慢性期病床が不足する見込みである。 医療圏南部の医療を支える中核的な病院であり、急性期医療に対応した上で、回復期及び慢性期、在宅医療についての対応も担うことが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当院は地域の急性期医療の中核的な病院である。 現状の急性期医療の強みを生かしつつ、構成市町村内の不足している診療科を補っていく対応が必要である。 現状は、整形外科疾患の対応が少ないが、高齢化により整形外科疾患の患者数の増加が見込まれるため今後対応を希望する。 医師が働きやすく、定着できるような病院づくりを検討し、医師の招聘を行う必要がある。 構成市町村内に療養病床がない状況を踏まえ、今後の対応を明確にする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 建て替え後の病院について、全体の70%を超える住民が「急病の際重症化した際に頼りになる病院」を要望すると回答し、最も多い意見であった。 求める医療サービスとして、「回復期や在宅復帰に向けた医療」の回答は、各市町村で約30%程度であった。 「終末期にある患者の緩和ケア」、「長期治療に対応した療養型医療」の回答は20%前後であった。 その他、新病院に期待する診療科の意見としては「町医者はいない、又は少ない診療科」を望む声が挙げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 当院の強みである循環器、脳外科、消化器、外科、血液内科等の急性期対応を維持・強化する。 不足する診療部門のうち、特にニーズの高い診療部門への対応の充実を目指す。 回復期リハビリテーション病棟と地域包括ケア病棟の機能は維持、充実を図る。 療養病床の設置については、医療圏内の他医療機関との動向を踏まえ、不足する場合に対応を検討する。 <p><検討課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 医師の招聘に向けての取り組み ニーズの高い診療部門、具体的なニーズの分析

◆5 疾病への対応について

	現状	求められる役割	あり方検討委員会での意見	住民意見(アンケート結果)	病院の考え
がん	<ul style="list-style-type: none"> 地域がん診療連携拠点病院として、伊那中央病院指定されている。 構成市町村の悪性新生物患者の59%が当院へ入院している。 消化器癌、白血病などの血液内科系のがん、乳がんなどの患者が多い。 当院で対応が困難な甲状腺、卵巣、子宮頸、皮膚等のがんは構成市町村外への入院が多い。 医療圏内に緩和ケア病棟の設置がない。 現在、院内で緩和ケアチームでの対応と外来での緩和ケア診療を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後増加するがん患者へ対応を続けることが求められる。 がんの罹患に伴い、緩和ケア等の対応も必要が必要となるため検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> がん治療を行う病院として、将来的に放射線治療や緩和ケアへの対応を検討することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート回答の60%以上が「がん、脳卒中、心筋梗塞などの急性期の医療」を新病院の医療サービスとして望んでいる。 18-29歳の年齢層のうち、53%が「特に高度な医療や特殊医療を行う専門医療体制」を望んでいる。 60-90歳の年齢区分の約20%が、「循環器科」を望む意見を挙げている。 「脳神経外科」の要望は、特に中川村のうち27%と多くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在対応している血液内科系のがん、消化器がん、肺がん、乳がん、泌尿器がん等の早期発見、手術、化学療法などを継続する。 上記疾患への対応を充実させるため、専門医の招聘に尽力する。 病棟の設置の有無に限らず、緩和ケアの診療は継続する。 緩和ケア病棟の設置は、今後の要望を踏まえ検討する。 <p><検討課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケアの提供方法
脳卒中・心筋梗塞	<ul style="list-style-type: none"> 循環器疾患、脳神経外科疾患の2次救急及び一部3次救急の対応を行っている。 構成市町村内の循環器系疾患の患者のうち75%が当院を受診している。 当院は循環器疾患に対し、急性期の医療機能と回復期の医療機能を有する。 当院は心臓のカテーテル手術と脳血管のカテーテル治療を行える設備がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療圏内での標準化死亡比が高くなっている脳血管疾患、心疾患への急性期対応の充実が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 循環器系の疾患は早急な処置が必要となるため、救急対応は必須である。 現状の医療提供体制を維持するため、脳卒中・心筋梗塞へ対応できる医師の招聘が必要であり、取り組みの強化を希望する。 	<ul style="list-style-type: none"> 心筋梗塞等の心疾患への24時間対応の体制を維持する。 急性期医療を維持しつつ、リハビリテーション機能を維持する。 <p><検討課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 医師の招聘への取り組み 	

糖尿病	<ul style="list-style-type: none"> • 当院は血糖コントロールが困難な場合の専門治療と慢性合併症の治療を行っている。 • 構成市町村内に透析施設は 2 施設あり、当院は入院で透析の導入も行っている。 • 糖尿病教室や教育入院などの重症化予防の取り組みを入院、外来で行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 糖尿病は脳卒中、心筋梗塞の原疾患となるため、適切な治療と重症化予防が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> • 糖尿病の慢性合併症である腎障害の増悪に伴い、透析が必要になった患者への対応を行う必要がある。 • 糖尿病の重症化予防の取り組みを、今後も継続して行うことが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> • 希望する診療科の回答のその他意見として、「内分泌・糖尿病」、「糖尿病のフットケア」等が挙げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 医療圏南部における唯一の入院透析医療機関として、予防と取り組むとともに透析センターの維持・充実を目指す。 • 入院、外来での重症化予防の取り組みを継続する。
-----	---	---	--	---	--

◆5 事業への対応について

	現状	求められる役割	あり方検討委員会での意見	住民意見(アンケート結果)	病院の考え
救急医療	<ul style="list-style-type: none"> • 当院は二次救急医療機関として機能しており、構成市町村内の 8 割の救急搬送を担っている。 • 当院では、救急センターとハイケアユニット病床を整備して対応を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 今後の高齢化の進展による患者数の増加に伴い、救急搬送患者数は現状と同水準以上となる。 • 緊急性の高い循環器疾患や脳血管疾患に対応できる伊南地域の中核病院としての役割が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 上伊那医師会による在宅当番医制が構築されているが、医師の高齢化により今後の継続については検討中であり、救急医療は医療圏全体で考えていく必要がある。 • 現状、救急搬送患者のうち外傷患者への対応ができていないため、強化を希望する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 現在の受療動向として、当院を選ぶ理由として「救急時に夜間や休日でも対応してくれるから」の意見が最も多かった。 • 今後新病院に望む機能として、「24 時間の救急医療体制」は全体の約70%以上が回答をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 循環器疾患や脳血管疾患等の患者については一部三次救急の患者の受け入れ体制の維持・強化を目指す。 • 救急センター、ハイケアユニットの充実を図り、重症患者への対応強化を目指す。 • 当院で不足している診療部門への対応を強化、充実を目指す。
災害医療	<ul style="list-style-type: none"> • 医療圏内では、伊那中央病院が災害拠点病院として指定されている。 • 当院では、災害時医療継続計画を策定し、適宜見直しを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 災害時に医療を提供し続ける体制の整備が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 災害発生時には、遠方から通っている医師やスタッフの確保が課題となる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 全体の 20%弱の回答者が「災害時においても医療提供が停止しない病院」を望んでいる。 • 災害時の医療体制整備を望む意見は、30-59 歳までの年齢区分に多い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 公的医療機関として、災害拠点病院に準じた施設整備を行う。 • 災害発生時には近隣の医療機関、行政等との連携し災害医療機能を果たせるよう体制を整備する。

<p>周産期医療</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 当院は、平成 19 年に産婦人科を休診し、分娩を取り扱わなくなった。 • 上伊那医療圏には、正常分娩を取り扱う医療機関が 9 機関（うち構成市町村内には 4 機関）運営されている。 • 地域周産期母子医療センターとして、伊那中央病院が位置づけられている。 • 構成市町村内の出生数、分娩数ともに減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 周産期医療への対応を行う対応の有無について検討が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 現在はクリニックと助産所での分娩対応を行っており、駒ヶ根市内ではお産に困るような状況ではない。 • 出生数、分娩数の減少もあるため当院で周産期医療への対応を行わないことは致し方ない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 年齢区分別に見ると、30-39 歳では 61%、40-49 歳では 46%が「周産期医療」を挙げている。 • 期待する診療科としては、「産婦人科」の回答数が最も多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> • 産婦人科医師確保の困難さを考慮し、近隣のクリニック・助産所及び伊那中央病院で構築される周産期医療体制を維持するものとし、新病院での積極的な対応は行わない。
<p>小児医療</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 当医療圏では、伊那中央病院が小児地域医療センターとして、辰野町立病院と当院は小児入院対応が可能な医療施設として位置づけられている。 • 夜間の救急体制は対応できる医師が当直の場合に限られる。 • 発達障害の早期発見を目的として、駒ヶ根市の 5 歳児健診を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 患者数の減少は見込まれているが、地域からの小児医療への対応の要望は大きい。 • 他の医療機関と連携し、十分な医療提供体制を構築することが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> • 小児の救急対応の強化を希望する。 • 小児科医の招聘に取り組む必要がある。 • 構成市町村内に、小児神経の専門医と小児精神の専門医が在籍していることから、協力して医療圏の発達障害児への診療拠点を作っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 新病院の医療サービスとして、「小児医療や小児救急」を求める声は各構成市町村内で 30%程度ずつ挙げられている。 • 年齢別にみると、30-49 歳の年齢区分の意見が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 医療圏南部の小児入院医療が可能な医療機関としての役割を維持する。 • 信州大学と連携し、発達障害の拠点病院を目指す。 • 小児科医師の招聘に取り組む。